

こころ日記「ぼちぼち」その②

10

脇野 千恵

思春期保健相談士

教員生活が長かったのですが、現役当時、もし教師以外の仕事を選ぶとしたら、どんなことができるだろうかと、よく考えていました。

職場の仲間と、「辞めたら何ができる？何がしたい？」という問いに、ほとんどの先生は「なんもできることない！なんもしたくないな…」という答えが返ってきました。

3年前、年齢のこともあり、もう教壇には立たないと決めた時、できることなら学校以外の場所で子どもたちを支援したいなと思っていました。教師をしながら、時間とお金を費やした「性と生」の研究と実践を活かした仕事がしたい。私にはそれしかないなと思いました。

それまで何の肩書きもない人間でしたが、たった一つですが、取得した資格があった

ことに気がつきました。それは「思春期保健相談士」。

「思春期保健相談士」ってどんな資格で、何をする仕事なの？とよく尋ねられます。私はこの資格が欲しくて研修を受けていたわけではなく、思春期の子どもたちのことを学びたいと思い研修に参加しているうちに、この資格がついてきたと言っていいでしょう。（まあ誰でも取得できるものですが。）

「思春期保健相談士」とは、一般社団法人日本家族計画協会が認可している資格です。「思春期の子どもたちに、専門的な知識や経験を積みながら適切に対応、支援する」資格を有する人のことです。

全国に約9000人が認可を受け、思春期保健推進のために活躍しています。私のような教員が取得する人は少なく、ほとんどは医師・保健師・看護師・助産師・養護

教諭・看護教員・少年補導員などの資格を持った人が併せ持つ資格のようです。

世の中には様々な資格があります。思春期専門と言っても、関心のある人は少なく、説明するのが面倒な時もありますが、一応専門的な知識として、思春期の心身の発達や、心理的なこと、思春期に起こりがちな問題などについて一通り学んでいます。

教員生活の中で、三分の二は中学校現場でしたので、思春期におこる様々な問題や課題については、数えきれないほどの事例に出会いました。今ようやくこの資格を活かせるときがきたと思っています。

外部講師として

大変なコロナ禍ですが、最近色々な中学校からの性教育講演の依頼が増えています。性教育への追い風としたいのですが、現状から言えば、性教育を包括的に系統立てて取り組んでいる学校がほとんどないというのが正直なところです。また、学校現場が、生徒指導上の思春期にありがちな問題を抱えて困っているから、という理由がほとんどです。

思春期の体と心については、唯一保健体育の授業で扱う程度。子どもたちが知りたいこと、身に付けておくべきことが教えられていない現実に唖然とします。

学校は、外部講師を招聘しての教育活動をよく行います。例えば、安全教育、メディアリテラシー教育、人権教育などです。

日ごろの学習内容にさらに専門家からの知識や経験を聞くことで、視野を広げたり、感動したりすることもあり、教員の知識では学ばせられない内容がほとんどです。教育現場では伝えられないことを、外部講師によって補うと言っていていいのでしょうか。

現場にいた頃は、事前学習もしないで、

外部講師の話で終わり！ということが多々あり、教師の怠慢ではない？本当に子どもたちに聞かせる意味があるの？これでいいの？などと思ったものです。

今自身が、「思春期保健相談士」として学校訪問をするようになり、立場が変わると色々なことが見えてきます。

学校の雰囲気や教師集団のまとめり、生徒たちの特徴など…。

今まで講演を依頼されると、体育館に100人以上の生徒を集めての講義形式でした。しかし、それではなかなか子どもたちの反応や表情もわからず、一方通行の知識伝達に過ぎないような気がして、これでいいのかなと思うことがしばしばありました。

「性と生」は、人権教育です。自分の命を守る話でもあるので、短い時間での出会いではあるけれど、ちゃんと伝えたいと思うようになりました。ちょっとハードですが、最近は各クラスの教室に入っただけの学習に取り組んでいます。9クラスあれば、同じことを9回講演します。

同じ内容の学習とはいえ、やはりクラスのカラーがあり、担任の個性もあり、話の流れを変えることもしばしば。生徒たちの反応も少しずつ違います。小集団での学習は、教員時代を思い出す場面でもありますが、何ととっても生徒たちのつぶやきや、質問にきちんと答えられるのが嬉しいです。

生徒たちとのふれあい

性教育の講演の前に、必ず生徒たちへの事前アンケートをお願いしています。質問は学年によって違いますが、「中学生になって変化したと思う体や心のこと」「人を好きになったことがあるか？」「男女問わずつき合いたいと思うことがあるか？」など、思

春期に起こるであろう事柄についてです。

今までにかなりのデータを集めていますが、学校ごとの目だった特徴はなく、今の中学生が思う事、感じる事は、一様に同じだなと感じています。

アンケートの目的は、まず生徒たちに「これから性教育の学習をするよ！」という意識づけのため。次に、教師が生徒たちの実態を知り、考察する機会とすることです。記述式のアンケートでは、たまに問題が発覚し、対応したという報告を受けることもあります。

生徒たちのアンケート結果は、必ず学習の中で使用し、生徒たちに返します。思春期にいる子どもたちは、他人のことがとて

も気になります。自分だけじゃないんだと受けとめ、安心できる材料になればと思っています。

また、学習後には、事後アンケートと感想（質問や疑問）もお願いしています。

事後アンケートは、私自身の講演内容の評価でもあり、今後に活かせるものとなります。担当の先生たちには、アンケート集計など大変な仕事をさせているなど理解していますが、教員と共に学ぶ学習でありたいと思う私のわがままでしょうか。

その代り、生徒の質問には、自筆で返事を書いて送っています。

短時間の学習で直接話せなかった生徒でも、アンケートなどからその思いが伝わってくるのですから不思議です。

つづく